

11-4 技術への挑戦と人材育成 ～若手技術者のマネジメント力向上のために～

1. 立場と仕事

建設コンサルタントの河川系の分野長として、社内組織としての全国の河川系分野を統括・運営等しつつ管理技術者として業務統括にも携わっていた入社 23 年目頃のことである。

複数の業務において管理技術者として従事してきたが、分野長として人材育成にも注力し、次世代の管理技術者育成を意識していた頃でもあった。

2. 遭遇した事態

河川の合流部において支川の流下能力不足により度々内水・外水氾濫が発生し、水害被害に悩まされていた地域で、合流点を下流に移動、付け替えし、洪水時の水位を最大 7m 下げるという大規模事業が検討された。河川整備計画が策定され、その後の事業検討開始から 4 年間に渡り、河川付替事業に関する計画設計や検討業務の管理技術者として従事してきた。河川付替事業はまだ検討課題が残っており、工事着工まであと数年を要する状況であった。

折しも、国土交通省において若手技術者育成として、若手管理技術者と熟練の管理補助技術者を配置する制度が試行されつつあり、当該事業の業務にも採用されたことから、若手技術者を管理技術者に擁立し、自身は管理補助技術者としてサポートする側に回ることにした。この結果、若手技術者に任せる部分が多く、人材育成と業務の技術品質において、業務への関与の仕方に葛藤が生じた。

3. 対応内容とその結果

この河川付替事業は技術的に難しい部分も多い上、数多くの工種が錯綜し、技術的な想像力が必要不可欠であった。さらに、住民等の合意形成も必要であった。これまでの経緯等を含め、私自身が工程管理や技術的判断などをすれば、早く効率的に業務を進捗させることができるであろうが、若手技術者育成を念頭に、技術品質を低下させることなく、業務を進める方法を模索した。

まずは若手技術者が計画し、工程管理をしつつ業務を進めるが、発注者との協議前には、社内で事前準備を十分実施し、打合せや委員会对応についても事前に想定問答を実施したり、資料チェックなどの指導を行った。また、社内で定期的に連絡会議を実施し、若手管理技術者と担当技術者と管理補助技術者の間で報連相を徹底させた。

管理補助技術者が決して見放さず、並走することで、品質を落とすことなく業務が適切に進捗し、若手管理技術者のマネジメント力が大幅に向上していく過程を見ることができた。具体的には、先回りすることで計画調整が早くなり、発注者や関係者とも物怖じせずコミュニケーションがとれるようになり、迅速な社内連携ができるようになっていった。

目的意識を持ってコミュニケーションを十分にとることで、技術伝承意識が高まり、次世代の管理技術者育成につなげることができた。